

ヒト腎組織切片で MTX の飽和性の輸送が確認できた。ラットの場合と異なり、PAH と PCG で大部分の飽和性輸送が阻害され、ヒトでは有機アニオントランスポーターの寄与率が大きいことが考えられる。RFC の寄与率の種差のため、NSAIDs は MTX の腎取り込みを強く阻害した。Ki 値と臨床投与量での非結合型薬物濃度から、salicylate、indomethacin や phenylbutazone では取り込み過程を阻害することが、diclofenac や ketoprofen の阻害効果は弱いことが予測された。NSAIDs 以外に、probenecid についても臨床濃度で十分阻害されることを見出した。

E. 結論

ヒト腎臓を用いて、側底膜側有機アニオントランスポーターの機能評価が行えることを確認した。MTX の腎取り込み過程におけるトランスポーターの寄与率には種差が見られることから、薬物間相互作用を予測する上でヒト組織の利用が重要である。臨床投与量の非結合型薬物濃度で腎取り込み過程を阻害する NSAIDs もあるが、臨床での薬物間相互作用が報告されているにも関

わらず、取り込み過程では説明がつかない NSAIDs もあり、さらに管腔側の排出過程の阻害も含めて検討する必要がある。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. Tahara H, Kusuhara H, Maeda K, Koepsell H, Fuse E, Sugiyama Y. Inhibition of OAT3-mediated renal uptake as a mechanism for drug-drug interaction between fexofenadine and probenecid. *Drug Metab Dispos, in press*
2. Tahara H, Kusuhara H, Chida M, Fuse E, Sugiyama Y. Is the monkey an appropriate animal model to examine drug-drug interactions involving renal clearance? Effect of probenecid on the renal elimination of h2 receptor antagonists. *J Pharmacol Exp Ther.* 316:1187-94, 2006.

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

医薬品の薬物動態相互作用の評価系確立に関する研究

分担研究者 頭金 正博

国立医薬品食品衛生研究所 医薬安全科学部 第二室長

研究要旨 医薬品の相互作用に影響を及ぼす CYP3A4 などの誘導現象を評価するための *in vitro* アッセイを構築することを目的とした。ヒト肝癌由来培養細胞株 HepG2 に、核内受容体の CAR、VDR、PXR を種々の組み合わせで共発現させ、CYP3A4 のプロモーター領域を用いたレポータープラスミドで転写活性を測定した。その結果、これらの受容体はリガンド存在下で相加的に CYP3A4 遺伝子の転写を活性化したが、リガンド非依存下では PXR と VDR は、CAR による CYP3A4 遺伝子の転写活性能を抑制することが明らかとなった。

A. 研究目的

現在、臨床においては複数の医薬品が同時に処方される場合が多く、それぞれの医薬品について薬物代謝酵素や薬物トランスポーターなどの誘導に関する情報を提供することは、医薬品による相互作用を防止する上で重要である。そこで、本研究では、ヒト薬物代謝酵素の CYP3A4 や薬物トランスポーターの MDR1、OATP の誘導に重要であるとされている核内受容体 PXR

(pregnane X receptor)、CAR (constitutive androstane receptor)、VDR (ビタミン D3 受容体) を種々の組み合わせで培養細胞に共発現させ、よりヒトに近い誘導応答を示す培養細胞系の確立を試みた。さらにこのアッセイ系の解析を通して CYP3A4 の誘導メカニズムを解明し、個人差の発現にどのように寄与するか検討することを目的とした。

B. 研究方法

CYP3A4 のプロモーター領域をヒトゲノムライブラリーより得て、luciferase 遺伝子の上流につないだレポータープラスミドを作製した。ヒト肝癌由来培養細胞株 HepG2 に、上記のレポータープラスミドとヒト CAR (*hCAR*)、ヒト VDR (*hVDR*)、ヒト PXR (*hPXR*) の発現プラスミドを種々の組み合わせで cotransfection した。24 時間培養した後、*hCAR* の活性を確認するために CAR のアンタゴニストである 10 μ M の androstanol で処理した。さらに 24 時間後、細胞を回収し、luciferase 活性を測定した。Transfection 効率は cotransfection した renilla luciferase 活性に基づき補正した。

C. 研究結果

(1) HepG2 細胞に核内受容体を単独で発現させた場合の CYP3A4 の誘導

ヒト肝細胞由来の培養細胞株である HepG2 細胞に hPXR、hCAR、hVDR をそれぞれ単独で 3 ng - 100 (あるいは 300) ng/well ずつトランスフェクションして、それぞれの受容体のリガンドを添加して (hCAR の場合は無添加) *CYP3A4* のレポーター遺伝子の転写活性を測定した。その結果、図 1、2 に示すように PXR と VDR は強発現させたそれぞれの核内受容体の量および添加したリガンド (Rifampicin あるいは活性型ビタミン D3) に依存して *CYP3A4* の転写活性を活性化した。また、CAR の場合は、発現させた核内受容体量に依存して *CYP3A4* レポーター遺伝子の転写を活性化した。一方、CAR のアンタゴニストとして作用すると報告されている androstrenol を添加すると、転写活性は抑制された (図 3)。

(2) HepG2 細胞に複数の核内受容体を発現させた場合の *CYP3A4* の誘導

HepG2 細胞に導入する *hCAR* の発現プラスミドを 100ng に固定し、*hPXR* の発現プラスミドを 0ng から 100ng に増加させてそれぞれの核内受容体を発現させた後、活性を比較した (図 4)。その結果、*hPXR* のリガンドである Rifampicin を添加した場合は、CAR による *CYP3A4* の活性化をさらに相加的に増加させた。一方、リガンド非依存下では *hPXR* は *hCAR* による *CYP3A4* 遺伝子の転写活性化能をトランスフェクションするプラスミド量に依存して抑制した。したがって、*hPXR* はリガンド非依存下で *hCAR* の転写活性能を抑制することが見出された。

また、HepG2 細胞に導入する *hCAR* の発現プラスミドを 100ng に固定し、*hVDR*

の発現プラスミドを 0ng から 100ng に増加させてそれぞれの核内受容体を発現させ、*CYP3A4* 遺伝子の転写活性を比較した (図 5)。その結果、*hPXR* の場合と同様に *hVDR* のリガンドである活性型ビタミン D3 を添加した場合は、*hCAR* による *CYP3A4* の転写を発現させる *hPXR* の量に依存して相加的に増強したが、活性型ビタミン D3 非存在下で *hVDR* は、*hCAR* による *CYP3A4* 遺伝子の転写活性化に対して抑制作用を示した。

D. 考察

Rifampicin などによる *CYP3A4* の誘導機構に関しては、遺伝子の転写レベルでの研究が行われ、転写開始点から上流 362 塩基対までの領域と転写開始点から上流に 7208 塩基対から 7835 塩基対までの間に、*CYP3A4* 遺伝子の転写を制御している領域が存在していることが明らかにされている。また、この領域に Rifampicin の受容体である PXR あるいは CAR や活性型ビタミン D3 の受容体である VDR が結合することによって、*CYP3A4* 遺伝子の転写を活性化することも明らかにされている。このように、*CYP3A4* は 3 種類以上の核内受容体が遺伝子上の同じ領域に作用して誘導されるが、これらの核内受容体間の互いの影響についての研究に関しては、未解明の点が多い。そこで、本研究の目的である、*in vivo* に近似した *CYP3A4* の誘導に関するアッセイ系の構築を目指した場合、これらの核内受容体を個別に単独で発現させたアッセイ系よりも複数種類発現させて核内受容体間の相互作用も含めたアッセイ系の方が、好ましいと考えられる。今回の研究結果か

らも、PXR や VDR を CAR と共発現させた場合、リガンド存在下では相加的に *CYP3A4* 遺伝子の転写を活性化するが、リガンド非存在下では、むしろ転写活性化を抑制するように作用することが示された。

CYP3A4 遺伝子の転写における核内受容体の相互作用のメカニズムに関しては、これらの核内受容体の共通したヘテロダイマーパートナーである RXR への結合を複数の受容体が存在することによって競合して、受容体としての活性が低下する可能性が考えられる。また、これらの受容体はリガンドが結合することによってコアクチベーターといわれる補助核内因子と結合し、転写活性化能を発揮すると考えられているが、複数の受容体が発現することによってコアクチベーターへの結合に関して競合が生じ、転写活性化能が低下する可能性も考えられる。いずれにしても、本研究で用いたアッセイ系の特性を明確にする必要があることから、*CYP3A4* 遺伝子の転写における核内受容体の相互作用のメカニズムを今後検討する予定である。

E. 結論

ヒト肝癌由来培養細胞株 HepG2 に、*CYP3A4* のプロモーター領域を用いたレポータープラスミドとヒト *CAR*、ヒト *VDR*、ヒト *PXR* の発現プラスミドを種々の組み合わせで共発現させ *CYP3A4* の誘導を行ったところ、これらの受容体はリガンド存在下で相加的に転写活性を活性化したが、リガンド非依存下では *hPXR* と *hVDR* は、*hCAR* の転写活性能を抑制することが明らかとなった。

F. 健康危険情報
該当無し

G. 研究発表
1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む)
1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

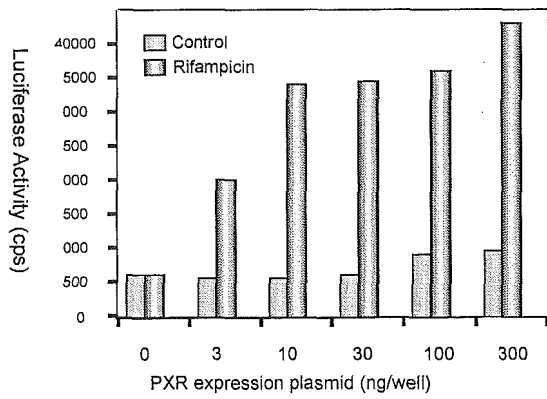


図1 PXRによるCYP3A4の誘導

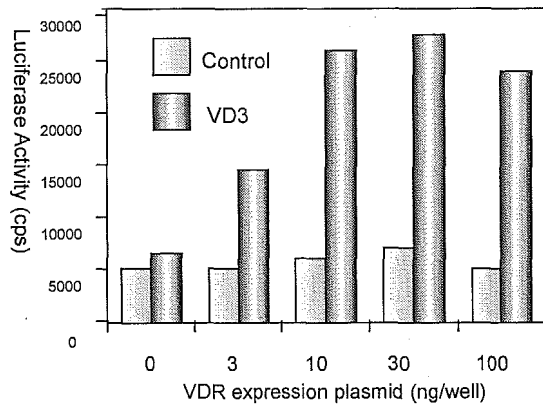


図2 VDRによるCYP3A4の誘導

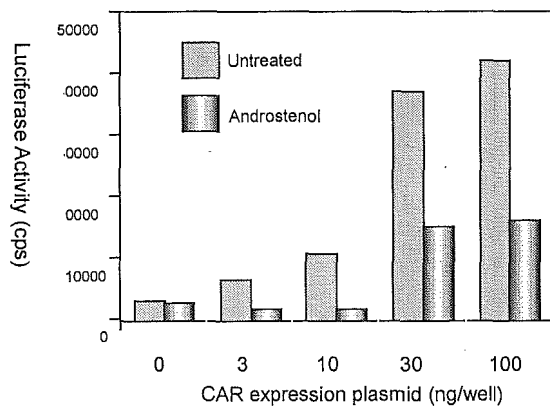


図3 CARによるCYP3A4の誘導

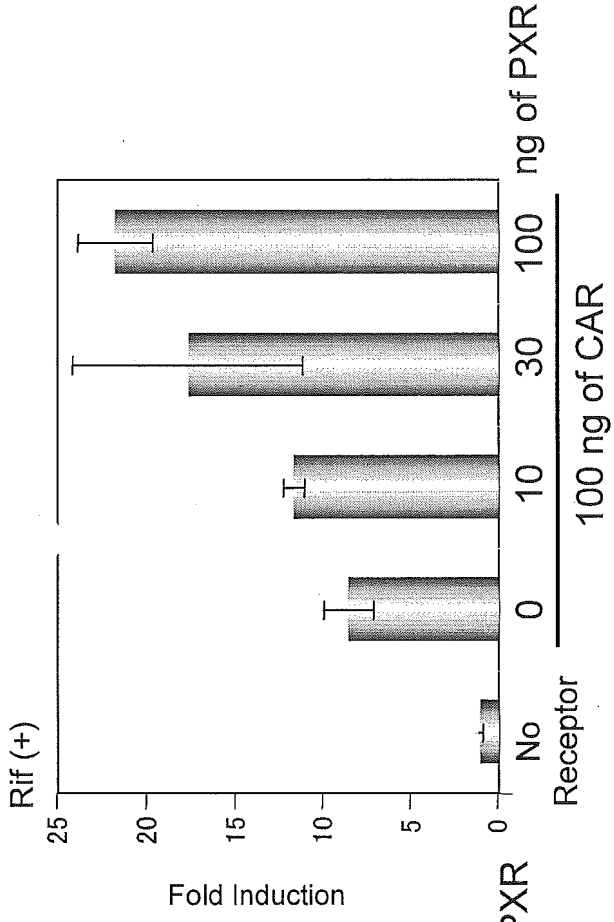
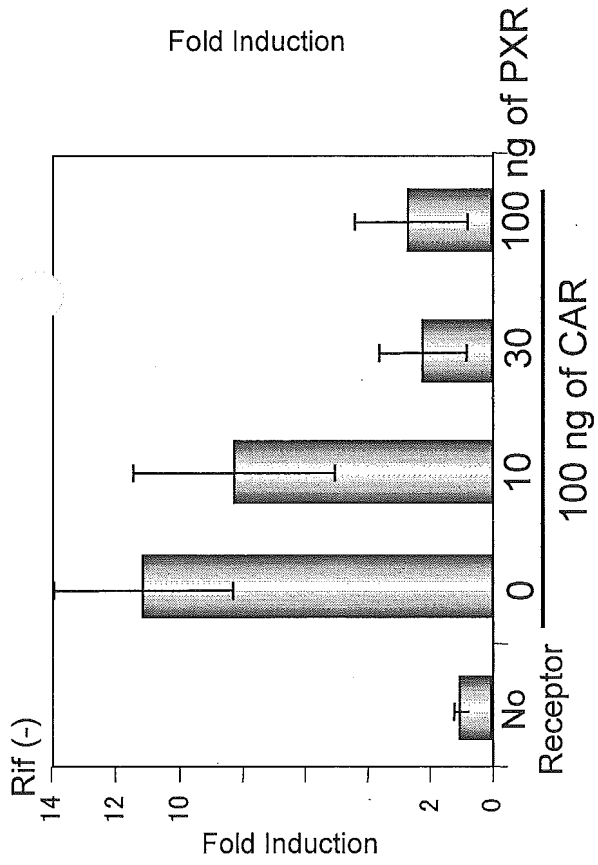


図4 CARによるCYP3A4の誘導に対するPXRの影響

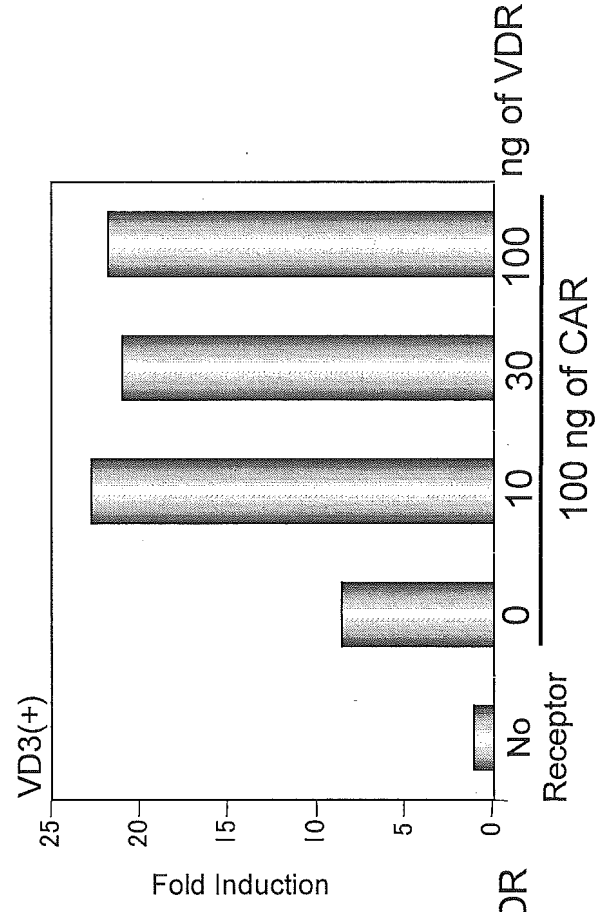
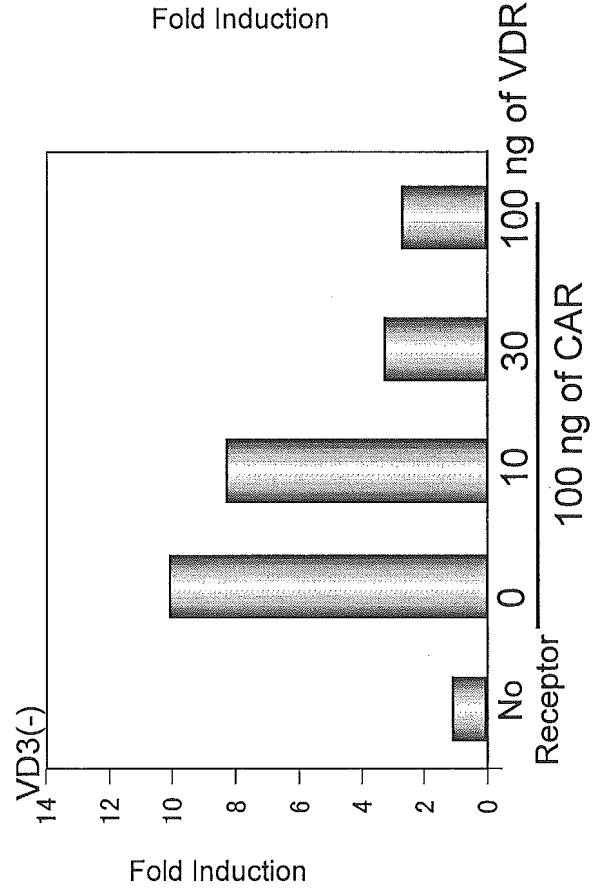


図5 CARによるCYP3A4の誘導に対するVDRの影響

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Saito M, Hirata-Koizumi M, Matsumoto M, Urano T, Hasegawa R	Undesirable effects of citrus juice on pharmacokinetics of drugs - Focus on recent studies	Drug Saf	28	677-694	2005
Saito M, Hirata-Koizumi M, Miyake S, Hasegawa R	Comparison of information on the pharmacokinetic interactions of Ca antagonists in the package inserts from three countries (Japan, USA and UK)	Eur J Clin Pharmacol	61	531-536	2005
平田睦子、齋藤充生、浦野 勉、三宅真二、長谷川隆一	日本の医薬品添付文書におけるCYPに関する情報の解析研究	国立衛生試験所報告	123	12-18	2005
平田睦子、齋藤充生、三宅真二、長谷川隆一	シクロスポリンによるスタチン系薬剤の著しい血中濃度増加作用とその機序及び添付文書における情報の解析	国立衛生試験所報告	123	37-40	2005
齋藤充生、平田睦子、三宅真二、長谷川隆一	安全性の問題で市場撤退となったセリバスタチンの最新情報と米国の市販後安全性監視システムの解析	国立衛生試験所報告	123	41-45	2005
Tahara H, Kusuvara H, Chida M, Fuse E, Sugiyama Y.	Is the monkey an appropriate animal model to examine drug-drug interactions involving renal clearance? Effect of probenecid on the renal elimination of h2 receptor antagonists	<i>J Pharmacol Exp Ther</i>	316	1187-94	2006
Tahara H, Kusuvara H, Maeda K, Koepsell H, Fuse E, Sugiyama Y.	Inhibition of OAT3-mediated renal uptake as a mechanism for drug-drug interaction between fexofenadine and probenecid	<i>Drug Metab Dispos</i>	In press		

Undesirable Effects of Citrus Juice on the Pharmacokinetics of Drugs

Focus on Recent Studies

Mitsuo Saito, Mutsuko Hirata-Koizumi, Mariko Matsumoto, Tsutomu Urano and Ryuichi Hasegawa

Division of Medicinal Safety Science, National Institute of Health Sciences, Tokyo, Japan

Contents

Abstract	677
1. Mechanism of Grapefruit Juice-Drug Interactions	679
1.1 Cytochrome P450 3A4	679
1.2 P-Glycoprotein	679
1.3 Organic Anion Transporting Polypeptide	680
2. Effects of Grapefruit Juice on the Concentration-Time Curve and Maximum Concentration of Drugs	680
2.1 Group 1 Drugs	680
2.1.1 Buspirone	684
2.1.2 HMG-CoA Reductase Inhibitors	684
2.1.3 Dextromethorphan	685
2.1.4 Amiodarone	685
2.1.5 Antimalarial Agents	686
2.1.6 Ciclosporin	686
2.2 Group 2 Drugs	686
2.3 Group 3 Drugs	686
2.3.1 Discussion	687
3. Interactions Between Other Citrus Juices and Drugs	687
3.1 Orange Juice (Sweet)	688
3.2 Seville (Sour) Orange Juice	688
3.3 Other Citrus Juices	688
3.4 Target Sites of Citrus-Drug Interaction in Enterocytes	688
4. Causative Ingredients	689
4.1 Candidate Ingredients for CYP3A4 Inhibition	689
4.1.1 Flavonoids	689
4.1.2 Furanocoumarins	689
4.2 Candidate Ingredients for P-Glycoprotein Inhibition	690
5. Conclusions	691

Abstract

It is well known that intake of grapefruit juice affects the pharmacokinetics of various kinds of drugs. It has been reported that other citrus juices also interact with certain drugs. To re-evaluate citrus juice-drug interactions based on currently available evidence, a literature search was conducted for new and updated information since the grapefruit juice-drug interaction was last reviewed in 1998. MEDLINE (1998–October 2004) was accessed and more than 200 reports were found. The effects of grapefruit juice ingestion on the pharmacokinetics of orally administered drugs have been reported for 40 drugs since the reviews published in

1998. Increases in either area under the concentration-time curve (AUC) or maximum plasma concentration (C_{max}) were found with 34 of these, the major mechanism being considered to be inactivation of intestinal cytochrome P450 3A4, a so-called mechanism-based inhibition. Although recent reports point to the inhibitory effects of grapefruit juice on the function of P-glycoprotein, which transports substrates from enterocytes back into the lumen, the contribution to the bioavailability of drugs that are substrates of P-glycoprotein has not been established yet. Dramatic decreases in AUC and C_{max} for two drugs in association with grapefruit juice ingestion has been reported and, in these cases, inhibitory effects on organic anion transporting polypeptide, which mediates absorption from the intestinal lumen to enterocytes, might be involved. Other citrus juices such as Seville (sour) orange juice and commonly ingested varieties of orange juice also showed significant effects on the AUC and C_{max} of some drugs. Although the situation is complex and uncertainties remain, we recommend that patients avoid citrus juice intake while taking medications and that healthcare providers advise against citrus juice intake in this setting until any interactions with subject drugs can be clarified in clinical studies.

It is generally accepted that intake of some foods may affect the pharmacokinetics of drugs. For example, foods containing many metal ions, such as calcium, magnesium, aluminium, iron (milk, milk products, etc.) inhibit the absorption of some antibacterial agents (tetracycline, enoxacin, etc.) because of chelation. Recently, it was reported that St John's wort, one of the world's most popular herbal preparations, can reduce the blood concentrations of some drugs, including warfarin (an anticoagulant), theophylline (a bronchodilator) and oral contraceptives by induction of cytochrome P450 (CYP) 3A4 (the isoform most active in drug metabolism by CYP), CYP2C9, CYP1A2 or P-glycoprotein.^[1] Changes in pharmacokinetic parameters, such as area under the concentration-time curve (AUC), maximum plasma concentration (C_{max}), time to reach C_{max} (T_{max}) and elimination half-life ($t_{1/2}$) of a drug, resulting from ingestion of combinations of food would depend on the kind and amount of foodstuffs ingested, the drug itself and the timing of administration relative to food intake.

In 1991, the first clinical study of grapefruit juice-drug interaction demonstrated an obvious increase in the AUC and C_{max} of the calcium channel antagonists felodipine and nifedipine.^[2] Since then, many studies of grapefruit juice-drug interactions have been conducted and two reviews of this topic were published in 1998.^[3,4] The major conclusions

were that grapefruit juice increases the AUC and C_{max} of orally coadministered drugs, such as felodipine, nitrendipine and nisoldipine (calcium channel antagonists), ciclosporin (an immunosuppressant), terfenadine (an antihistamine) and midazolam and triazolam (anxiolytics) and that drugs with lower oral bioavailability are affected to a greater degree. The mechanism of action is considered to be inhibition of CYP3A4 in the small intestine, probably as a result of accelerated CYP3A4 degradation, which means that the process is 'mechanism-based' rather than competitive. The effect of grapefruit juice continues for up to 24 hours at least after intake and cumulative effects with time have been observed. On the basis of results from *in vitro* studies, the candidate ingredients in grapefruit juice that are predicted to account for this interaction are naringin (flavonoid) and 6',7'-dihydroxybergamottin (furanocoumarin). However, when the reviews were conducted in 1998, the candidates for the causative ingredient were still under investigation because clinical investigations, using pure naringin or supernatant and particle fractions of grapefruit juice suggested that neither of these substances would make a major contribution to interactions in humans.

We conducted a literature search of MEDLINE (1998–October 2004) using the keyword 'grapefruit juice' for new and updated information since the

subject of grapefruit juice-drug interaction was last reviewed in 1998^[3,4] and found more than 200 reports. Therefore, in this article, we re-evaluate grapefruit juice-drug interactions (mechanisms, kinds of drugs affected, extent of effects and active ingredients). Furthermore, because recent reports have shown interactions between other citrus juices and some drugs, we also summarise these new findings, focusing on active ingredients. Finally, we propose recommendations for patients and health-care providers in relation to the risks of taking medications close to citrus juice ingestion.

1. Mechanism of Grapefruit Juice-Drug Interactions

Two previous reviews showed that grapefruit juice acts at the absorption stage in the small intestine because of the lack of interaction between grapefruit juice and intravenously administered drugs; reduction of intestinal CYP3A4 activity was considered a possible mechanism (see section 1.1).^[3,4] In addition to an effect on CYP3A4, new and updated reports have suggested the involvement of two transporters in the small intestine (see sections 1.2 and 1.3).

1.1 Cytochrome P450 3A4

In previous reviews, a mechanism-based inhibition of intestinal CYP3A4 was cited as the cause of grapefruit juice-drug interactions, based on the finding that CYP3A4 protein content in enterocytes (luminal epithelial cells in the small intestine) was reduced without change in corresponding messenger RNA levels after grapefruit juice ingestion in human volunteers.^[5] In mechanism-based inhibition, the inhibitor is metabolically activated by an enzyme and then irreversibly inactivates the same enzyme by covalent binding,^[6,7] which means that return of enzyme activity requires *de novo* enzyme synthesis. However, it had been reported in previous reviews^[3,4] that some ingredients in grapefruit juice exhibited competitive (reversible) inhibition of CYP3A4 activity *in vitro*. The relative importance of these two different mechanisms in clinical grapefruit juice-drug interactions has yet to be clarified.

Recently, mechanism-based inhibition was also demonstrated in *in vitro* experiments using cell free enzyme assay systems^[8-10] and in a human colon carcinoma cell line (Caco-2 cells).^[11] In addition, two studies of the active ingredients of grapefruit juice^[10,12] (see sections 4.1.1 and 4.1.2) have suggested that, rather than competitive inhibition, a mechanism-based inhibition of intestinal CYP3A4 greatly contributes to grapefruit juice-drug interactions *in vivo*.

1.2 P-Glycoprotein

P-glycoprotein was initially isolated because of its role in multidrug resistance to cancer chemotherapeutic agents. Subsequent studies revealed that this transporter is also involved in the pharmacokinetics of many drugs. P-glycoprotein is expressed in the luminal epithelial cells of tissues that are often associated with drug absorption and disposition, for example, hepatocyte canalicular membrane, renal proximal tubules, the intestinal mucosa and the capillaries of the brain.^[13] Therefore, inhibition of P-glycoprotein function at these sites might be expected to increase the oral bioavailability of P-glycoprotein substrate drugs.

An inhibitory effect of grapefruit juice on P-glycoprotein may occur mainly in the intestinal wall because of a lack of grapefruit juice effect on the bioavailability of intravenously administered drugs.^[14-17] Recently, *in vitro* studies using Caco-2 cells have clearly shown an inhibitory effect of grapefruit juice on efflux of substrates of P-glycoprotein.^[18,19] Because P-glycoprotein and CYP3A4 share many substrates and inhibitors,^[20] inhibition of P-glycoprotein function is speculated to augment the grapefruit juice-drug interaction resulting from CYP3A4 inhibition.^[20] For example, although ciclosporin is known to be a substrate of both intestinal CYP3A4 and P-glycoprotein, a more significant contribution of intestinal P-glycoprotein to the oral bioavailability of this drug has been demonstrated in kidney transplanted patients.^[21] Grapefruit juice was reported to increase the oral bioavailability of ciclosporin (AUC increased by a maximum 40–60%), probably by inhibition of P-glycoprotein because Seville (sour) orange juice (see section 3.2) significantly reduced enterocyte concentrations of CYP3A4 with no influence on ciclosporin disposi-

tion.^[22] On the other hand, other studies found that the pharmacokinetic parameters of digoxin (a cardiotonic agent) were not affected^[23] or only slightly and not significantly affected by grapefruit juice ingestion in healthy volunteers (1.2-fold and 1.1-fold increase in AUC and C_{max} , respectively).^[24] However, although digoxin is a substrate for P-glycoprotein that is minimally metabolised, it is not considered an appropriate probe for evaluating the clinical effect of grapefruit juice on intestinal P-glycoprotein because of its high oral bioavailability (70–80%).^[25,26] There is no other information available on the effects of grapefruit juice ingestion on P-glycoprotein function *in vivo*.

1.3 Organic Anion Transporting Polypeptide

Recently, marked reduction of both the AUC and C_{max} of fexofenadine (an antihistamine) and celiprolol (a β_1 -adrenoceptor antagonist) by grapefruit juice was reported.^[27,28] These studies provided the first indications that the oral bioavailability of drugs can be dramatically reduced by grapefruit juice ingestion. Because both fexofenadine and celiprolol are not metabolised by CYP3A4 but are substrates of P-glycoprotein, it had been expected that their bioavailability would have been increased by grapefruit juice ingestion. Therefore, the involvement of a third mechanism in the interaction between grapefruit juice and drugs has been suggested.

Dresser et al.^[27] focused on one intestinal transporter, the organic anion transporting polypeptide (OATP), which assists uptake of drugs on the luminal side of enterocytes, thereby opposing the function of P-glycoprotein. These investigators revealed that grapefruit juice markedly reduces human OATP function *in vitro* at a concentration of 0.5%, while P-glycoprotein function is only slightly and not significantly inhibited even at the 10-fold higher concentration of 5.0%. It is considered that this more potent effect of grapefruit juice on OATP function is responsible for the reduction in the AUC and C_{max} of fexofenadine and celiprolol reported in the previously mentioned clinical studies.^[27,28] Based on these findings, Dresser et al.^[29] proposed a new model involving OATP for fruit juice-drug interaction in small intestine enterocytes.

2. Effects of Grapefruit Juice on the Concentration-Time Curve and Maximum Concentration of Drugs

Tables I, II and III summarise results for all drugs for which pharmacokinetic clinical studies have reported on grapefruit juice-drug interactions; some previously reviewed data are also included in these tables. Although orange juice was used as a control in some studies as shown in section 3.1, the results of these studies were deleted as much as possible because of reports of interactions between orange juice and drugs (see section 3.1). Since the 1998 reviews,^[3,4] 37 drugs have been newly found to interact with grapefruit juice in clinical trials. Most studies were conducted by cross-over design and used approximately ten healthy volunteers, but the amount/concentration of ingested grapefruit juice, the frequency of administration and the timing relative to drug administration were variable. The extent of change in the AUC and C_{max} also varied with different drugs. On the basis of changes in AUC and C_{max} , drugs could be classified into the following three groups: group 1: increase (>30% increase in either AUC or C_{max}); group 2: no change; and group 3: decrease (>20% decrease in either AUC or C_{max}).

2.1 Group 1 Drugs

In table I, increases in the AUC and C_{max} of 34 drugs interacting with grapefruit juice are listed in ascending order of oral bioavailability. Most of these drugs are substrates of CYP3A4. Although the degree of increase in AUC and C_{max} appeared to be reciprocal with the value of bioavailability after oral administration (as in previous reviews), this was not always the case. The major reason for this discrepancy is likely to be related to the degree of first-pass metabolism in the intestinal wall. Differences in the method of grapefruit juice ingestion among clinical studies might also be a factor. However, since some drugs such as diazepam and methylprednisolone showed a greater change in AUC than the maximum expected from the bioavailability, elimination of these drugs from the blood might be reduced by grapefruit juice ingestion although there is no supporting evidence for this at present. Thus, the clinical risk levels associated with taking particular drugs in combination with grapefruit juice are not

Table 1. Increases in area under the concentration-time curve (AUC) and maximum plasma concentration (C_{max}) with grapefruit juice for group 1 drugs (i.e. drugs with >30% increase in either AUC or C_{max}). Data with maximum change in AUC are shown

Study	Drug	Increase ^a		Study design		grapefruit juice intake amount ^c (mL)	timing ^d
		Bioavailability (%)	AUC	C_{max}	study population, ^b age (y)		
Fuhr ⁽⁴⁾	Saquinavir	1-4	2.2 ^e	2.2 ^e	12 men (ND)	300	0, +1
Clifford et al. ⁽³⁰⁾	Terfenadine	<2	2.5 ^e	3.4 ^e	6 men (mean 39)	300	-0.5
Eberf et al. ⁽³¹⁾	Scopolamine ^f	3-50	1.4 ^e	0.94	14 (mean 23)	150	-1.0, -0.25, 0
Lilja et al. ⁽³²⁾	Buspirone ^f	4-5	9.2 ^e	4.2 ^e	10 (mean 22)	400	-50, -45, -37, -26, -21, -13, 0, +0.5, +1.5
Lilja et al. ⁽³³⁾	Simvastatin ^f	<5	16.1 ^e	9.4 ^e	10 (mean 22)	400	-49, -44, -36, -25, -20, -12, 0, +0.5, +1.5
Kantola et al. ⁽³⁴⁾	Lovastatin ^f	5	15.3 ^e	11.8 ^e	10 (mean 23)	400	-49, -44, -36, -25, -20, -12, 0, +0.5, +1.5
Schubert et al. ⁽³⁵⁾	17 β -estradiol	5	1.2 ^g	1.3 ^g	8 ovariectomised women (45-70)	400	0, 8 hourly to +192
Takanaga et al. ⁽³⁶⁾	Nisoldipine	5-8	4.1 ^e	4.9 ^e	8 (mean 23)	200	0
Fuhr et al. ⁽³⁷⁾	Nimodipine	5-10	1.5 ^e	1.2 ^e	8 men (23-29)	250	0
Soons et al. ⁽³⁸⁾	Nitrendipine	5-30	2.3 ^e	2.1 ^e	9 men (mean 25)	150	-15, -10, -0.25, +5, +10
Fingerova et al. ⁽³⁹⁾	Progesterone ^f	9	1.3	ND	8 women (postmenopausal)	200	0
Charbit et al. ⁽⁴⁰⁾	Halofantrine ^f	10 (highly variable)	2.8 ^e	3.2 ^e	12 (21-36)	250	-72, -48, -24, -12, 0
Di Marco et al. ⁽⁴¹⁾	Dextromethorphan ^f	10 (rat)	5.4 (bioavailability)	5.4 (bioavailability)	11 (median 32)	200	0
Lilja et al. ⁽⁴²⁾	Atorvastatin ^f	12	2.5 ^e	1.1	12 (mean 22)	400	-50, -45, -37, -26, -21, -13, 0, +0.5, +1.5
Edgar et al. ⁽⁴³⁾	Felodipine	14	3.3 ^e	2.9 ^e	9 men (mean 44)	400	0
Bailey et al. ⁽³⁾	Propafenone	15-25	1.3	1.2	12 men (ND)	250	0
Munoz et al. ⁽⁴⁴⁾							
Uno et al. ⁽⁴⁵⁾	Nicardipine	15-45	1.6 ^e	ND	6 men (27-44)	300	-0.5
Veronese et al. ⁽⁴⁶⁾	Midazolam	25-40	6.0 ^e	2.7 ^e	8 men (ND)	480	-2d, -1d, -1.5, -1.0, -0.5
Ducharme et al. ⁽⁴⁷⁾	Ciclosporin	30 (highly variable)	1.6 ^e	1.4 ^e	10 men (mean 28)	250	0, +2
Fuhr et al. ⁽⁴⁷⁾	Verapamil	30-40	1.4 ^e	1.6 ^e	24 (mean 27)	250	0, +3, +8, +12
Kanazawa et al. ⁽⁴⁸⁾	Erythromycin ^f	32	1.5 ^e	1.5 ^e	6 men (mean 34)	600	-0.5
Desta et al. ⁽⁴⁹⁾	Cisapride ^f	40-50	2.6 ^e	1.8 ^e	10 men (21-31)	400	-50, -45, -37, -26, -21, -13, 0, +0.5, +1.5

Continued next page

Table I. Contd

Study	Drug	Bioavailability (%)	Increase ^a		C _{max}	Study design	
			AUC	AUC		study population, ^b age (y)	grapefruit juice intake: amount ^c (mL) timing ^d
Weber et al. ^[50]	Ethinylestradiol	40–50	1.3 ^{eh}	1.4 ^{eh}	1.4 ^{eh}	13 women (20–29)	100 –1.5, 0 +3, +6, +9, +12
Sigusch et al. ^[51]	Nifedipine	50–60	2.0 ^e	1.9 ^e	1.9 ^e	10 men (mean 26)	200 0, +2, +4, +8, +12
Lilja et al. ^[52]	Triazolam	60	2.4 ^e	1.4 ^e	1.4 ^e	16 (19–28)	400 –50, –45, –37, –26, –21, –13, 0, +0.5, +1.5
Hollander et al. ^[53]	Prednisone	62	1.5	1.4	1.4	12 renal transplant patients (mean 28)	150 3 hourly from –7.5 to +22.5
Libera et al. ^[54]	Amiodarone ^f	67	1.5 ^e	1.8 ^e	1.8 ^e	11 men (mean 24)	300 0, +3, +9
Garg et al. ^[55]	Carbamazepine ^f	70–85	1.4 ^e	1.4 ^e	1.4 ^e	10 inpatients ^f (mean 28)	300 Once daily for 2d
Ozdemir et al. ^[56]	Diazepam ^f	75	3.2 ^e	1.5 ^e	1.5 ^e	8 (mean 34)	250 0
Castro et al. ^[57]	Praziquantel ^f	>80	1.9 ^e	1.6 ^e	1.6 ^e	18 men (mean 29)	250 0
Varis et al. ^[58]	Methylprednisolone ^f	82–92	1.8 ^e	1.3 ^e	1.3 ^e	10 (mean 22)	400 –50, –45, –37, –26, –21, –13, 0, +0.5, +1.5
Fuhr et al. ^[59]	Caffeine	100	1.3 ^e	ND	ND	12 (mean 34)	300 –0.5, +6, +12, +18, +24, +30, +36
van Agtmael et al. ^[60]	Artemether ^f	ND (low)	3.5 ^e	2.6	2.6	8 men (ND)	700 Once daily for 5d ^k
Lee et al. ^[61]	Sertraline ^f	ND	1.47 ^e (trough serum concentrations)	1.47 ^e (trough serum concentrations)	1.47 ^e (trough serum concentrations)	5 patients ^f (mean 69)	240 –144, –120, –96, –72, –48, –24, 0 ^m

a Expressed as ratio to control value.

b Healthy men and women unless otherwise stated.

c Volumes per intake. For double-strength juice, the volumes were doubled.

d Hours relative to drug administration if numerical values only are stated.

e Significant grapefruit juice effects ($p < 0.05$).

f Drugs newly reported to interact with grapefruit juice since the two reviews were published in 1998.^[3,4]

g Beverage not containing flavonoids (and, therefore, probably not containing furanocoumarins) given as a control.

h Herbal tea given as a control.

i Patients had received therapy with carbamazepine three times daily for the previous 3–4wk and this treatment was never interrupted during the study.

j Grapefruit juice was given with the morning dose of carbamazepine for 2d and blood samples were collected before the second intake and over a period of 8h after the second intake.

k Grapefruit juice was given with artemether once daily for 5d and blood samples were collected before the fifth intake and over a period of 8h after the fifth intake.

l Patients had received therapy with sertraline once daily in the morning for depression for the previous 6wk or more and this treatment was never interrupted during the study.

m Grapefruit juice was given with sertraline once daily for 7d and blood samples were collected before the morning dose of sertraline for 7d.

ND = no available data.

Table II. Primary metabolic enzyme and oral bioavailability of group 2 drugs (i.e. drugs with no change in area under the concentration-time curve [AUC] or maximum plasma concentration [C_{max}] with grapefruit juice)

Study	Drug	Primary metabolic enzyme	Bioavailability (%)	Study design ^a study population, ^b age (y)	grapefruit juice intake amount ^c (mL)	grapefruit juice intake timing ^d
Ho et al. ^[62]	Quinine ^e	CYP3A4	88	10 men (19–37)	200 ^f	Twice daily for previous 5d, 0
Josefsson et al. ^[63] Vincent et al. ^[64]	Amlodipine	CYP3A4	81	12 men (mean 32)	240 200	0 Once daily for the following 8d
Yasui et al. ^[65]	Alprazolam ^e	CYP3A4	80–100	8 men (mean 31)	200	Three times daily for previous 10d, 0
Min et al. ^[66]	Quinidine	CYP3A4	70	12 men (mean 23)	240	0
Penzak et al. ^[67] Shelton et al. ^[68]	Indinavir ^e	CYP3A4	65	13 (mean 24)	240	Previous evening, 0 ^g
Cheng et al. ^[69] Vandel et al. ^[70]	Clarithromycin ^e Clomipramine ^e	CYP3A4 CYP1A2, CYP3A4	55 <62	12 (mean 35) 6 depressed inpatients ^h (31–67)	240 250	0, +2 0
Yasui et al. ^[71]	Haloperidol ^e	UDP glucuronyltransferase, CYP3A4	60–65	12 women inpatients ⁱ (mean 53)	200	Three times daily for 7d ^j
Tassaneeyakul et al. ^[72] Christensen et al. ^[73] Sigusch et al. ^[74]	Omeprazole ^e Diltiazem	CYP2C19, CYP3A4 CYP3A4, CYP2D6	54 40–50	13 (ND) 9 men (ND)	300 200	0 0, +2, +4, +8, +12
Jetter et al. ^[75] Vandel et al. ^[70]	Sildenafil ^e Amitriptyline ^e	CYP3A4, CYP2C9 CYP1A2, CYP2C19, CYP2D9, CYP3A4	40 33–62	24 men (mean 29) 7 depressed inpatients ^k (30–73)	250 250	-1.0, 0 0
Zaidenstein et al. ^[76]	Losartan ^e	CYP2C9, CYP3A4	33	9 (mean 39)	200	-1.0, immediately before 0
Lane et al. ^[77] Vandel et al. ^[78]	Clozapine ^e	CYP1A2, CYP2C19, CYP3A4	27–50	15 inpatients (mean 35)	250	Twice daily for 14d ^l
van Rooij et al. ^[79]	Acenocoumarol	CYP2C9	>80	12 (ND)	ND	ND
Kumar et al. ^[80]	Phenyletoin ^e	CYP2C9, CYP2C19	ND	10 men (28–55)	300	0
Lijja et al. ^[42]	Pravastatin ^e	Hydroxylase	20	11 (mean 27)	400	-50, -45, -37, -26, -21, -13, 0, +0.5, +1.5
Fukazawa et al. ^[81] Bequemont et al. ^[82] Parker et al. ^[83]	Digoxin ^e	Not metabolised	70–80	7 (mean 24)	240	-0.5, +4, +10 three times daily for the previous 5d and the following 5d
Banfield et al. ^[82]	Desloratadine ^e	Not identified (unlikely to be CYP3A4 and CYP2C6)	ND	24 (mean 33)	480	Three times daily for the previous 2d, 0, +2

a The most severe condition with the largest amount and the greatest frequency of grapefruit juice intake was used for this table.

Continued next page

Table II. Contd

b	Healthy men and women unless otherwise stated.
c	Volumes per intake. For double-strength juice, the volumes were doubled.
d	Hours relative to drug administration if numerical values only are stated.
e	Drugs newly reported to interact with grapefruit juice since the two reviews were published in 1998. ^[3,4]
f	Orange juice was given as a control. Although a 23% decrease in AUC was observed in combination with 50% grapefruit juice, this was considered to be within the range of dispersion because of the decrease of only 4% observed with 100% grapefruit juice.
g	Indinavir was administered every 8h for 1d and once the next morning. Grapefruit juice was given with the last dose on d 1 and with the next morning dose.
h	Patients had received therapy with clomipramine.
i	Patients had received therapy with haloperidol twice daily for 3–31wk and this treatment was never interrupted during the study.
j	Grapefruit juice was given three times (twice with drug administration) daily for 7d and blood samples were collected before the last intake and for 1 week after the last intake.
k	Patients had received therapy with amitriptyline.
l	After administration of clozapine for 50d, grapefruit juice was coadministered twice daily with each clozapine dose for 14d and trough plasma levels of clozapine were determined.

CYP = cytochrome P450; ND = no available data.

easily estimated because the extent of increase in AUC and C_{\max} is variable and the actual effects would depend on the pharmacological activity of the parent drug/metabolite, the drug's safety margin and the type of adverse effects the drug causes. Furthermore, it should be mentioned that most clinical studies were conducted for only short periods and involved small numbers of healthy volunteers, rather than over the long-term with patients requiring drug therapy.

New and/or updated information on the pharmacokinetic and pharmacodynamic changes of group 1 drugs with grapefruit juice ingestion are presented in the following sections.

2.1.1 Buspirone

Buspirone is an anxiolytic agent with an oral bioavailability of only 4%.^[87] Because a potent CYP3A4 inhibitor, itraconazole, has been shown to greatly increase the AUC of buspirone,^[88] it is considered to be metabolised by this enzyme. Grapefruit juice increased the AUC of buspirone 9.2-fold and the C_{\max} 4.2-fold, but a significant increase in pharmacodynamic effects was seen only in relation to subjective overall drug effect.^[32] The relatively modest impact of grapefruit juice on buspirone may be explained at least in part by the fact that the intensity of a drug effect is generally proportional to the logarithm of the drug concentration in blood.

2.1.2 HMG-CoA Reductase Inhibitors

Simvastatin, lovastatin and atorvastatin have HMG-CoA reductase inhibitory activity that results in reductions in cholesterol biosynthesis. Rhabdomyolysis is known as a rare but severe adverse effect of these agents.^[89] They are metabolised by CYP3A4 and have low oral bioavailability (12% for atorvastatin and $\leq 5\%$ for simvastatin and lovastatin).^[89] A battery of clinical studies^[33,34,42] that included intakes of large quantities of grapefruit juice (200mL double-strength grapefruit juice intake three times daily for 3 days and drug administration with the first intake of grapefruit juice on the third day), showed a marked increase in AUC for simvastatin and lovastatin (>10 -fold). However, HMG-CoA reductase inhibitory activity increased only 3.6-fold for simvastatin. Although the AUC for atorvastatin increased 2.5-fold, the AUC values for its major metabolites following CYP3A4 metabo-

Table III. Decreases in AUC and C_{max} with grapefruit juice for group 3 drugs (i.e. drugs with >20% decrease in either AUC or C_{max}). Data with maximum change in AUC are shown

Study	Drug	Bioavailability (%)		Decrease ^a		Study design		grapefruit juice intake	
		AUC	C _{max}	AUC	C _{max}	study population, ^b age (y)	amount ^c (mL)	timing ^d (h)	
Penzak et al. ^[83]	Itraconazole ^e	30–40	0.64	0.57 ^f	0.64	11 (mean 28)	480	0, +2.0	
Dresser et al. ^[27]	Fexofenadine ^e	33	0.38 ^f	0.33 ^f	0.38 ^f	10 (19–40)	300	0	
Demarles et al. ^[64]	Amprénavir ^e	ND	0.78	0.90	0.78	12 (ND)	200	+0.5, +1.0, +1.5, +2.0, +2.5, +3.0	
Reif et al. ^[65]	Etoposide ^e	47–76	ND	0.76	ND	6 ^g (median 66)	100	0	
Lilja et al. ^[68]	Cellprolol ^e	30–70	0.05 ^f	0.15 ^f	0.05 ^f	12 (21–23)	200	+0.25 –50, –45, –37, –26, –21, –13, –1, 0, +4, +10, +22, +27	
Gupta et al. ^[66]	Theophylline	100	0.82	0.75	0.82	10 male (median 31)	300	0	

a Expressed as ratio to control value.

b Healthy men and women unless otherwise stated.

c Volumes per intake. For double-strength juice, the volumes were doubled.

d Hours relative to drug administration.

e Drugs newly reported to interact with grapefruit juice since the two reviews were published in 1998.^[3,4]

f Significant grapefruit juice effects ($p < 0.05$).

g Patients had received etoposide for poor prognosis or relapsed small-cell lung cancer. No data available on sexes.

AUC = area under the concentration-time curve; C_{max} = maximum plasma concentration; ND = no available data.

lism decreased by 15–26%. Because the metabolites of atorvastatin have significant HMG-CoA reductase inhibitory activity, this decrease in the AUC of the metabolites of atorvastatin might lead to a lesser increase in the total activity in blood (1.5-fold for atorvastatin) than might be expected by consideration of the AUC for the atorvastatin. Therefore, the clinical risk arising from concomitant use of grapefruit juice and these drugs is not as large as would be expected from the change in pharmacokinetic parameters of the parent drugs. In other studies, conducted under more actual conditions, it was reported that the AUC of lovastatin increased 1.94-fold (oral dose of lovastatin in the evening after consuming an 8-ounce glass of regular-strength grapefruit juice with breakfast for 3 days),^[90] and that of atorvastatin increased 1.40-fold (200mL regular-strength grapefruit juice intake three times daily for 3 days and drug administration with the first intake of grapefruit juice on the third day).^[81]

2.1.3 Dextromethorphan

Although there is no information available on the oral bioavailability in humans of dextromethorphan, an over-the-counter and prescribed antitussive agent, it is a substrate of CYP3A4 and CYP2D6. Grapefruit juice increased the bioavailability of dextromethorphan by 5.4-fold, based on analysis of the compound and its metabolites in urinary samples.^[41] However, the interaction between grapefruit juice and dextromethorphan would not be as clinically important as expected because metabolites are reported to have the same extent of pharmacodynamic activity as the parent drug.^[91]

2.1.4 Amiodarone

Amiodarone, an antiarrhythmic agent, is metabolised by CYP3A4 to the more potent metabolite N-desethylamiodarone. The oral bioavailability of the parent drug is 67%.^[89] Administration of amiodarone is known to cause torsade de pointes, a rare but sometimes fatal ventricular arrhythmia, which occurs in the context of QT interval prolongation.^[89] This is one of the most serious clinical risks associated with group 1 drugs. Grapefruit juice completely inhibited the production of N-desethylamiodarone, resulting in 50% and 84% increases in the AUC and C_{max} of amiodarone, respectively.^[54] As expected from experimental results showing greater

electrophysiological properties of N-desethylamiodarone than those of the parent drug,^[92,93] the pharmacodynamic effect (QT prolongation) of concomitant use of grapefruit juice is smaller than that expected from pharmacokinetic studies. In a clinical study, grapefruit juice reduced the prolongation in QT intervals caused by the administration of amiodarone.^[54]

2.1.5 Antimalarial Agents

Interactions between antimalarial agents and grapefruit juice have been newly reported since the reviews published in 1998.^[3,4] The oral bioavailability of artemether could not be estimated because intravenous administration has not been approved for this agent. Grapefruit juice increased the AUC and C_{max} of artemether by 3.5-fold and 2.6-fold, respectively,^[60] but there is no information on pharmacodynamic changes. For halofantrine, torsade de pointes is one of the known adverse effects.^[89] With grapefruit juice, a 2- to 3-fold increase in the extent of QT interval prolongation was reported with 2.8-fold and 3.2-fold increases in the AUC and C_{max} of this drug, respectively.^[40] Because of concerns about the risk of torsade de pointes, concomitant use of grapefruit juice with halofantrine should be avoided.

2.1.6 Ciclosporin

Ciclosporin, an immunosuppressant, is used in transplant patients and is a substrate of CYP3A4 and P-glycoprotein. It is well known that grapefruit juice significantly increases the AUC and C_{max} of orally administered ciclosporin in renal transplant patients and healthy volunteers, although the extent of these increases is only 40–60% (maximum).^[17] Recent reports have provided similar results and shown that grapefruit juice also affects the formation and/or elimination of metabolites M1 and M9.^[94–96] Although changes in the AUC and C_{max} of the M1 metabolite were equivocal, reductions in the AUC and C_{max} for the M9 metabolite were consistently observed. The increased systemic exposure to ciclosporin and changes in its metabolites might suggest that metabolic inhibition of ciclosporin by intestinal CYP3A4 could occur in combination with grapefruit juice. However, the major contribution to the increase in the AUC and C_{max} of ciclosporin by grapefruit juice is considered to result from a reduc-

tion in P-glycoprotein function (see section 1.2). Although the inhibitory effect of grapefruit juice on P-glycoprotein has clearly been shown *in vitro* (see section 1.2), the change in the AUC of ciclosporin is moderate.^[17] However, the consequent effect would not be negligible because of high individual differences in bioavailability, the potential for serious adverse effects (nephrotoxicity, hypertension and cerebral toxicity) and the narrow therapeutic index of ciclosporin.^[89]

2.2 Group 2 Drugs

Table II lists 19 drugs for which both the AUC and C_{max} appear not to be affected in combination with grapefruit juice ingestion, together with the primary metabolic enzymes involved with metabolism of these drugs and their oral bioavailabilities. For most drugs in this group, the results of clinical studies are newly reported. The pharmacokinetic parameters of alprazolam (an anxiolytic agent), quinine (an antimalarial agent), quinidine (an antiarrhythmic agent), indinavir (an anti-HIV protease inhibitor), clarithromycin (an antibacterial agent) and amlodipine (a calcium channel antagonist) were not affected by grapefruit juice despite the fact that their primary metabolic enzyme is CYP3A4. Therefore, it is considered that the primary metabolism of these drugs might not occur in the small intestine. The other drugs listed in table II are not metabolised by CYP3A4 or are metabolised by both CYP3A4 and other enzymes. For example, the pharmacokinetic parameters of losartan were barely affected by the CYP3A4 inhibitor itraconazole because losartan is a substrate for both CYP3A4 and CYP2C9.^[97,98]

2.3 Group 3 Drugs

Recently, some clinical studies have shown that concomitant intake of grapefruit juice can decrease the AUC and C_{max} of orally coadministered drugs (table III).

For example, values for fexofenadine and celiprolol were markedly lowered when coadministered with grapefruit juice. For fexofenadine, a concentration relationship was detected, i.e. 100% grapefruit juice decreased AUC by approximately 70% whereas 25% diluted grapefruit juice decreased AUC by approximately 20%.^[27] Since the metabo-

lism of fexofenadine and celiprolol is negligible in humans^[99] and the amounts of drug excreted in urine was reduced without decreasing renal clearance, grapefruit juice was considered to inhibit the absorption of these drugs.^[27,28] A possible mechanism is inhibition of uptake via OATP (see section 1.3). Fexofenadine is known to be a substrate of OATP, but there is no relevant information with regard to celiprolol. Other mechanisms, such as changes in intraduodenal pH and formation of complexes between drugs and components of grapefruit juice, cannot be discounted.

Itraconazole, an antifungal agent, is metabolised by CYP3A4 to hydroxyitraconazole. Concomitant intake of double-strength grapefruit juice with itraconazole capsules caused decreases in the AUC values for both itraconazole and hydroxyitraconazole of approximately 50%, but the metabolic ratio (hydroxyitraconazole AUC vs itraconazole AUC) was not affected, suggesting that there was no influence on itraconazole metabolism.^[83] The investigators proposed that a decrease in duodenal pH or delay in gastric emptying by grapefruit juice would result in decreased itraconazole absorption. Involvement of OATP is also likely, although there is no actual evidence of this. Contrary to the findings reported in the above-mentioned study,^[83] a recent study conducted by Gubbins et al.^[100] showed a slight but significant increase (1.2-fold) in itraconazole AUC with grapefruit juice. This study evaluated the interaction between an oral solution of itraconazole formulated in hydroxypropyl- β -cyclodextrin and a different grapefruit juice schedule (ingestion of 240mL of single-strength grapefruit juice three times daily for 2 days). The investigators noted the differences in volume, viscosity and calorific density of the grapefruit juice preparation compared with standard regimens and further studies are needed.

It should be taken into account that the decrease in AUC and/or C_{max} of group 3 drugs caused by grapefruit juice interaction may lessen their pharmacological effects. Particularly in the case of celiprolol, which is indicated for hypertension, great care would need to be taken because the decrease in AUC and C_{max} could lead to a sharp rise in blood pressure. Although grapefruit juice effects on the pharmacokinetics of amprenavir, etoposide and the-

ophylline are small, caution should also be taken with use of these drugs because of their narrow therapeutic range.

2.3.1 Discussion

Although the variability (individual differences) in clinical studies listed in the tables is generally high, this is dependent on the drugs studied. Therefore, it should be noted that small changes in average AUC and C_{max} do not always translate into a negligible effect in all individuals; very high individual differences in the bioavailability of ciclosporin, for example, can be observed. When focusing on how any particular drug is affected by grapefruit juice, the variability in the original report should be checked to obtain a true clinical perspective. The potential for different responses in sensitive subpopulations is another important issue. For example, a grapefruit-felodipine interaction study in elderly individuals showed greater increases (AUC 2.9-fold, C_{max} 4.0-fold)^[101] than those reported in clinical studies that have mostly involved healthy young volunteers. Thus, the elderly should be particularly cautioned about concomitant ingestion of grapefruit juice with drugs.

From a different point of view, Bailey^[89] has suggested that there are potential beneficial effects with concomitant ingestion of grapefruit juice, such as enhanced drug efficacy. As autoinduction of CYPs is a concern for CYP-metabolised drug therapy, grapefruit juice could be useful in the maintenance of drug effectiveness. However, because grapefruit is a natural product and the ingredient and mechanism of action responsible for its effects are not yet fully understood, it is difficult to recommend grapefruit juice as a booster. Another possible countermeasure is the substitution of grapefruit juice sensitive agents (group 1 drugs) for grapefruit juice tolerant agents (group 2 drugs) in the same therapeutic classes.^[102] However, it should be noted that each drug has different characteristics, such as absorption, distribution, metabolism and excretion.

3. Interactions Between Other Citrus Juices and Drugs

Recently, some reports have been published regarding interactions between citrus juices other than grapefruit juice and drugs.

3.1 Orange Juice (Sweet)

In the first clinical study of grapefruit juice and drug interaction,^[2] it became clear that orange juice, in contrast, did not affect the pharmacokinetics of felodipine. Subsequently, orange juice was sometimes used as a negative control in studies of grapefruit juice-drug interactions. However, notable clinical results that might reverse this long-held stance have recently been reported. In one study, orange juice reduced the AUC and C_{max} of fexofenadine by up to 30%, an effect similar to that of grapefruit juice.^[27] Orange juice also substantially reduced the C_{max} , AUC and urinary excretion of celiprolol by 89%, 83% and 77%, respectively.^[193] An *in vitro* study showed that orange juice has a much stronger inhibitory effect on OATP than P-glycoprotein,^[27] so it would be expected to inhibit OATP-mediated transport rather than P-glycoprotein function *in vivo*. Unexpectedly, apple juice, a non-citrus juice, was also reported to have the same effect on fexofenadine *in vivo* and OATP-mediated transport *in vitro*.^[27]

3.2 Seville (Sour) Orange Juice

Seville (sour) orange is mainly used for confectionary products such as marmalade. Although its juice is not fit to drink because of its sour taste, several interaction studies with Seville (sour) orange juice have been conducted. The increase in the AUC of felodipine, a CYP3A4 substrate, with Seville (sour) orange juice is the same as that observed with diluted grapefruit juice; both juice preparations contained the same total concentrations of candidate causative ingredients bergamottin plus 6',7'-dihydroxybergamottin.^[104] A significant increase in the oral bioavailability of dextromethorphan with Seville (sour) orange juice has also been reported.^[41] Because it has been reported that Seville orange juice decreases the enterocyte concentration of CYP3A4,^[22] mechanism-based inhibition must be considered. The lack of interaction between Seville (sour) orange juice and ciclosporin^[22] suggests that Seville orange juice does not inhibit intestinal P-glycoprotein function.

3.3 Other Citrus Juices

The juice of another citrus, the tangerine (a kind of Mandarin orange), has been reported to decrease the AUC of midazolam (an anxiolytic) by about 40% over the first 1.5 hours and to increase T_{max} 2-fold without effects on total AUC, C_{max} and the AUC ratio of the main metabolite to midazolam.^[105] Tangerine juice might have some impact on the absorption process of midazolam.

Lime juice has demonstrated mechanism-based inhibition of CYP3A4 activity *in vitro*.^[10] However, in a clinical study, 25% diluted lime juice containing the candidate causative ingredient bergamottin in the same amounts as grapefruit juice (see section 4.1.2), did not exert any significant effects on the pharmacokinetic parameters of felodipine.^[10]

To our knowledge, there is no further information available on interactions between drugs and tangerine or lime juice.

3.4 Target Sites of Citrus-Drug Interaction in Enterocytes

Both P-glycoprotein and OATP as well as CYP3A4 are expressed in the liver and their involvement in drug disposition and exclusion has been reported.^[106-108] However, the lack of interaction between grapefruit juice and intravenously administered drugs^[1,6,14,15,17] suggests that hepatic enzymes and transporters are minimally, if at all, in-

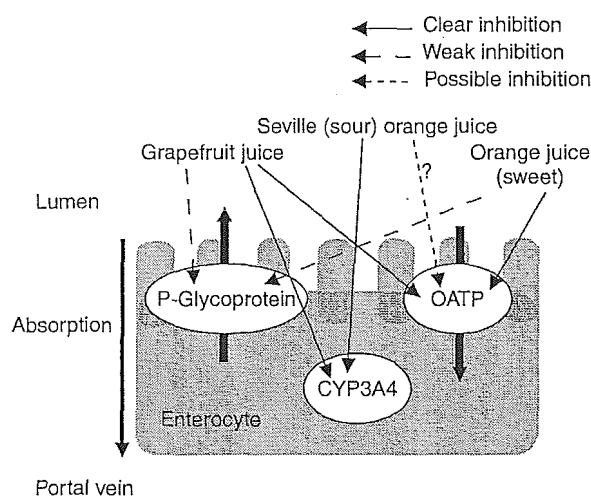


Fig. 1. The target sites in enterocytes of the small intestine for various citrus juices. CYP3A4 = cytochrome P450 3A4; OATP = organic anion transporting polypeptide.

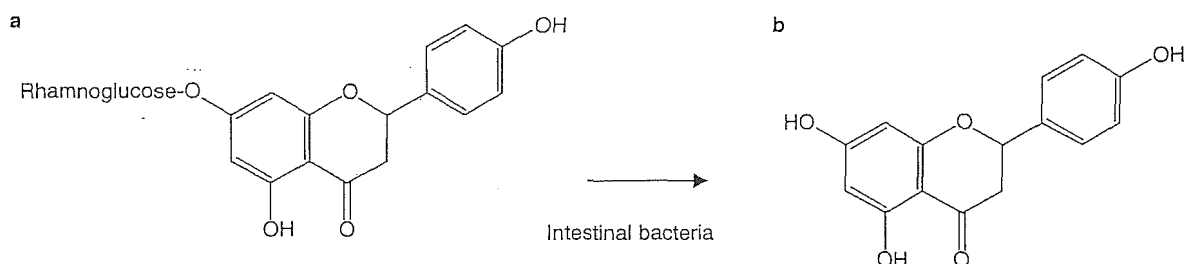


Fig. 2. Chemical structures of (a) naringin and (b) naringenin.

involved. Based on the findings mentioned in sections 1, 3.1 and 3.2 and the new model proposed by Dresser and Bailey,^[29] we describe the target sites in small intestine enterocytes where various citrus juices exert their inhibitory actions (figure 1).

If drugs are substrates of CYP3A4, they will be partially metabolised in the intestine and their metabolites will appear in the portal vein. Drugs that are substrates of OATP will be absorbed into enterocytes with the aid of OATP and passed through to the portal vein. Drugs that are substrates of P-glycoprotein may be transported back into the small intestine.

Grapefruit juice inactivates CYP3A4 in a mechanism-based manner and inhibits the function of P-glycoprotein and OATP. It appears that orange juice has inhibitory effects on P-glycoprotein and OATP, but not on CYP3A4. The effects of grapefruit juice and orange juice on P-glycoprotein are likely to be weak. Seville (sour) orange juice is considered to inactivate CYP3A4 by a mechanism-based action, but not to inhibit the function of P-glycoprotein. Possible effects of Seville (sour) orange juice on OATP remain to be elucidated.

4. Causative Ingredients

Several hundred ingredients have been identified in grapefruit juice.^[109] The composition of the juice varies widely, depending on the genetic background of the plant, environmental conditions during fruit growth, fruit maturity and fruit processing.^[109,110] Although several studies have been conducted, definite conclusions as to causative ingredients cannot be drawn yet.

4.1 Candidate Ingredients for CYP3A4 Inhibition

Flavonoids and furanocoumarins, which are found in grapefruit juice and Seville (sour) orange juice but not in orange juice, have been proposed as causative ingredients of CYP3A4 inhibition by grapefruit juice.

4.1.1 Flavonoids

Naringin (naringenin glycoside) is the most prevalent flavonoid in grapefruit juice.^[111] Although naringin is hydrolysed by intestinal bacteria to naringenin^[112,113] (figure 2), which has CYP3A4 inhibitory activity *in vitro*,^[3,4] clinical studies using commercially-available pure naringin have shown that it is not the major inhibitory ingredient of grapefruit juice.^[114-116] Recently, naringenin was reported to cause competitive, but not mechanism-based, inhibition of CYP3A4 activity *in vitro*,^[12] but such competitive inhibition is known to be not important for the clinical grapefruit juice-drug interaction.^[89]

4.1.2 Furanocoumarins

The furanocoumarins exert mechanism-based inhibition of CYP3A4 *in vitro*,^[9] but clinical studies using pure forms cannot be conducted because these have not yet been approved for human intake. Previously, although 6',7'-dihydroxybergamottin (figure 3), one of the most abundant furanocoumarins, was proposed as an active ingredient in grapefruit juice, subsequent clinical studies using supernatant and particulate fractions obtained by means of centrifugation and filtration of grapefruit juice showed that 6',7'-dihydroxybergamottin was not the major active ingredient.^[117]

Information on bergamottin (figure 3), another major furanocoumarin, has been newly reported. Guo et al.^[9] showed that bergamottin and some other